



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

2011 - 2012 年度テーマ

R.I. テーマ	「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」	R.I. 会長	Kalyan Banerjee
2580 地区テーマ	「簡素にして充実」	地区ガバナー	水野 正人
クラブテーマ	「質素にして充実」	クラブ会長	海内 栄一



2011年12月14日

第1248回例会

会長 海内 栄一
幹事 藤掛 靖元

本日の卓話

「会員卓話」

片岡君、矢野君

今後の卓話予定

12/21	「クリスマス家族会」夜間例会
12/28	休会



年間100%出席

上原 洋一君	26回	上野 雅宏君	18回
長沼 一雄君	16回	古谷 輝彦君	14回
伊石 佳高君	8回		

前回 (12/7 1247 回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト	1名	東京江戸川RC	白子英城様
◆ビジター	3名	向島RC	大沼トク子様、東京浅草RC
		東京麴町RC	山本 勇様
			長廣徳密様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
43名	1名	3名	35名	4名	89.74%	1245 例会修正 欠席 11 名・出席率 71.05%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に！

会長報告<海内会長>

今月は家族月間です。
今年度カルヤン・パネルジー IR 会長の強調事項は「家族」「継続」「変化」であり、その内「家族」を第一項目に挙げています。かつてマザー・テレサは「世界の平和のために何ができるかですって？ 家に帰って、あなたの家族を愛しなさい。」と仰り、家族こそ最も大切な基本単位であることを強調されました。
また、3月11日の東日本大震災での大災厄

は日本人の価値観を大きく変えたと言われています。家族の絆、地域の繋がり、物から心へと本来大切にすべきものを再確認したようです。親子が離れ離れになった現実には悲惨であり、家族や親子の絆がいかに大切であるかをあらためて考えさせられるものでした。
私達ロータリアンは家族、地域、国家、世界とコミュニティの和を広げて、世界理解と平和というロータリーの目的を追求するため、心ある人々が常に社会をリードして行けるように努力したいものです。

幹事報告<藤掛幹事>

- ・例会終了後 第6回理事役員会を開催いたします。理事役員の方のご出席をお願いいたします。

- ・各委員会委員長の皆様、上半期事業報告をお願いいたします。年内にメールにて幹事までご提出ください。1月18日の例会にて発表をお願いいたします。

年次総会報告

予め配布された次年度理事候補者について
全員一致で承認されました。

2012年～2013年度理事（アルファベット順）

原田 毅（役員兼任）

井田健爾

伊石佳高

小林雅純

本健太郎（役員兼任）

斎藤彰悟

園部容弘

高木裕輔

上原洋一

上野雅宏

海内栄一（直前会長）

尚、役員は下記の通り選任致しました。

（アルファベット順）

原田 毅（会 長）

宮村義男（幹 事）

本健太郎（副会長）

潮田幸一（会 計）

2011年～2012年度 第6回理事・役員会報告

<審議事項>

1. 11月度会計報告……………承認
2. 天竺元会員再入会の件
……………入会審査の開始を承認する。
3. バギオ基金への賛助金の件 ……………
ニコニコより5万円支出する事を承認する。

<報告事項>

下記事項についての報告があった。

1. 東日本大震災復興支援特別委員会の件
2. 3クラブ合同例会の件
3. クリスマス家族会の件
4. 「東日本大震災チャリティー Tシャツ販売
収益金の取り扱いについての報告」の件

委員会報告

<親睦活動委員会 小林博委員長>

- ・来る12月21日、クリスマス会を開催させていただきます。本日迄で90名のご参加申し込みをいただいております。ありがとうございます。本日迄申し込み受け付けております。例会場の記載が間違っております、3F「翔雲の間」ですのでご注意ください。質素にして充実した会を楽しく開催したいと思いますので、ご協力の程お願い申し上げます。

<宮村次年度幹事>

《第一回次年度被選理事・役員会のご案内》

12月7日予定の年次総会での承認を前提に
次年度の被選理事・役員会を下記の日程で
開催致します。ご多忙とは存じますが、次
年度の被選理事・役員はご出席の程お願い
致します。

*日時：12月14日 例会終了後

（13時40分～15時予定）

*会場：浅草ビューホテル3階「清澄の間」

ニコニコボックス

<植木>

- ・本日の卓話をお願い致しました、白子英城様をご紹介させていただきます。

<古谷、藤掛、藤田、永井、小池、原田、海内、上野>

- ・白子様 本日の卓話、よろしく願い致します。

<浜中>

- ・お誕生日のお祝いをして戴き、有難うございました。

<中村>

- ・結婚記念日に花束を戴きまして誠に有難うございました。

<岩田>

- ・結婚記念日に花束を戴きまして誠に有難うございました。

<太田、長島、斎藤、長沼>

- ・東日本大震災 頑張ろう 東日本！
立ち上がれ 日本！

「なぜ、日本は鎖国したのか」―信長・秀吉・家康―



東京江戸川ロータリークラブ

白子英城様

卓話者の白子様から要旨をいただきましたので、そのまま掲載させていただきます。

1. ヨーロッパ人来航の道程

イベリア半島を征服したイスラム勢力を撃退するため、キリスト教勢力は「レコンキスタ」（再征服戦）により1492年にグラナダのアルハンブラ宮殿を陥落させ、イスラム勢力を駆逐した。

これにより、ポルトガルとスペインは、国王を中心とした強力な中央集権国家を成立させ、ルネッサンス期を通じて完成された「羅針盤」の実用化や、大型帆船の建造技術向上により「大航海時代」を招来した。

大航海の目的は、イスラム圏を通らずにモルッカ諸島の香辛料（コショウ、ナツメグ、丁子等）をヨーロッパにもたらす事と、両国による植民地獲得競争にあった。

1492年スペインは、コロンブスにより西回りでアジアのモルッカ諸島を目指したが、アメリカ大陸を発見した。

1494年ポルトガルとスペインはローマ教皇の承認のもとで、「トルデシヤラス条約」を締結し、世界を両国で2分割し、植民地拡張を競い合った。ローマ教皇は植民地獲得を許したが、同時に両国に対し、「布教保護権」を与え、キリスト教布教を義務づけた。

1498年ポルトガルは、バスコ・ダ・ガマにより東回りでインドのゴアに到着し、モルッカ諸島を勢力圏に納めた。

1534年に創立された「イエズス会」は、ポルトガル国王の要請により、インドのゴアに同会創立者の一人であるフランシスコ・ザビエルを派遣した。

1543年（天文12年）、マカオに進出していたポルトガル人が種子島に漂着し、マルコポーロの「東方見聞録」で紹介された幻の「黄金の国ジパング」発見の報が伝わり、日本とポルトガルとの交易が開始され、ヨーロッパとの交流が始まるのである。

マラッカで布教活動をしていたザビエルはポルトガル貿易商から、日本人は識字力があり、知識欲が強いから布教に適していると知らされ、日本に関心を持ったが、1547年に鹿児島出身のアンジロウと出会い、日本開教

を決意する。

1549（天文18年）アンジロウを伴い、ザビエルは鹿児島に上陸し、領主・島津貴久よりキリスト教布教の許可を得て、キリスト教の日本開教を実現した。

2. 織田信長は、1568年（永禄11年）に足利義昭を将軍に奉じて上洛し、「天下布武」を掲げ、天下統一を目指したが、既存の宗教集団と対立した。そのため信長は、比叡山延暦寺、伊勢長島の一方向一揆、蓮如の石山本願寺等を弾圧したが、1569年（永禄12年）ルイス・フロイスを謁見し、イエズス会の布教を許可し、イエズス会を支援していった。

これは既存集団に対する牽制と、交易による利益を視野に入れていたといわれている。

しかし、信長は1582年（天正10年）「本能寺の変」により、志半ばで49歳の生涯を閉じた。

3. 豊臣秀吉は、「大返し」で天下を掌握し、当初は信長の対キリシタン政策を承継し、支援した。

しかし、1587年（天正15年）島津義弘に対する九州征伐に20万の大軍で出陣した秀吉は、博多に於いてキリシタン政策の大転換をするのである。長崎がイエズス会領となり、砦も築かれており、ポルトガル商人と宣教師により、日本人が奴隷として海外に輸出されていることに気づいたのである。

さらに、イエズス会がキリシタン大名を操作し得る事を見抜いき、その危険性を察知した。

同年6月18日に秀吉は11ヶ条の覚書を発布し、大名領主の入信制限と領主による領民の改宗強制を禁止し、日本人の輸出と肉食の禁止等を命じた。さらに、翌日の6月19日には、伴天連追放令といわれている「定書5ヶ条」が発布され、伴天連は20日以内に日本から退却するよう命令した。

しかし、「黒船の儀は商売の事」として引続き黒船（交易船）の来航を許可している。

この定書により、イエズス会は与えられていた日本での布教権と居住権、さらには長崎、茂木、浦上の領有権も剥奪された。

これはイエズス会を排除し、黒船との貿易を直接掌握する事を意味し、秀吉は長崎を関白の直轄領として、莫大な利益を生む南蛮貿易を推進していくのである。

小田原征伐で完全な全国統一が完成し、徳川家康を関東に移封した秀吉は、いよいよ北京入城を目指して1592年（文禄元年）、まず朝鮮に出兵した。「文禄の役」である。

1596年（慶長元年）スペイン船サン・フェリペ号が土佐の浦戸に漂着し、秀吉はその大量の積荷を没収したが、その際、同船の航海士が「スペイン

は他国の領土征服には、まず宣教師を送り込み、キリスト教を布教し、信者が多くなったら、信者の内応を得て軍隊を派遣し、その地を征服する。だからスペインは多くの植民地を持っているのだ」と語った。

この話しが秀吉に伝わり、伴天連追放令にも係わらず、スペイン系宣教師が布教していた事もあり、26名の宣教師や信者を長崎の西坂の丘で磔刑に処した。

「26 聖人の殉教」である。

この同じ年の 1597 年（慶長 2 年）には、には再度の朝鮮出兵である「慶長の役」が敢行されたが、その最中の 1598 年（慶長 3 年）秀吉は伏見城で 63 歳の生涯を閉じた。

4. 徳川家康は 1600 年（慶長 5 年）の関が原の戦いで秀吉後の天下を掌握した。

この年の 3 月に、オランダ船リーフデ号が豊後の臼杵に漂着し、オランダ人ヤン・ヨーステンとイギリス人ウイリアム・アダムスが家康と会見した。家康はオランダやイギリスとの交易を希望したが、特にスペインの効率の良い金、銀の精錬技術の導入を目的に、浦賀にスペイン船来航を望んだが、その望みは果たせなかった。

1603 年（慶長 8 年）家康は征夷大將軍に就任し、江戸に幕府を開設した。家康はキリスト教に関心は薄く、その布教や信仰を放任していたため、イエズス会を始め、各教団の布教活動は活発化し、士農工商の各階層に浸透していった。

1605 年（慶長 10 年）秀忠が將軍になると、家康は大御所として駿府に移るが、1612 年（慶長 12 年）に「岡本大八事件」が発生するにおよび、キリスト教に対する政策を変更した。

1613 年（慶長 18 年）秀忠は金地院崇伝起草の伴天連追放令を全国に公布した。

翌年には改宗しなかった高山右近、内藤如安等 100 余人の信徒の国外追放を命じ、マカオやマニラに送られた。

これは「大追放」と言われ、大坂冬の陣の直前に行われた。

キリシタン弾圧によりキリシタンと豊臣方の結び付きを恐れたからだといわれている。

1615 年（元和元年）大坂夏の陣にて豊臣を滅ぼした家康は、元和 2 年 75 歳で死去した。

秀忠は引続き大村、長崎、京都に於いて「元和の大殉教」といわれるキリシタンの大量処刑を実施している。

1623 年（元和 9 年）徳川家光が第 3 代將軍に就任した。

家光はキリシタン摘発に「踏み絵」を採用し、厳しくキリシタン取締りを行ったため、残存の信徒の多くは、かつてのキリシタン大名有馬晴信の島原や小西行長の天草に逃れて行った。

幕府はこの地域のキリシタン勢力を抑圧するため、反キリシタンの松倉重

政を領主にし、厳しく弾圧をしたため、全国から逃れて来たキリシタンを中心に、非キリシタンの農民をも含めた領民は1637年（寛永14年）、ついに一揆を起こした。

「島原の乱」である。

老中松平信綱の率いる幕府軍は、3万6千人が2ヶ月にわたり籠城している原城を包囲し、総攻撃により約2万人を殺害し原城を陥落させた。

この「島原の乱」により大きな衝撃を受けた幕府は、1641年（寛永18年）「かれうた御仕置の奉書」を公布し、宣教師の入国防止のためポルトガル船の入港を禁じた。

これに驚いたポルトガルのマカオ政庁は、貿易再開の交渉使節を派遣してきたが、幕府は奉書に従い、使節と乗組員61人を処刑した。

これにより、種子島以来96年間日本と交易をしていたポルトガルが追放され、既にイギリスやスペインは日本から撤退していたため、オランダのみが残された。

幕府は1641年（寛永18年）に長崎に出島を築き、オランダ船の入港と居住を出島に限定し、これにより幕府は鎖国を完成するのである。

オランダは日本を独占したとして、祝杯を挙げたといわれている。

5. しかし、鎖国の実態は完全に国を鎖したのではなく、箱館、対馬、鹿児島、そして長崎の4つの口（港）が開いており、引続き交易が行われ、外国の情報も入っていたのである。

特に長崎には「オランダ風説書」により、ヨーロッパの情報が入手されていた。

「鎖国」という言葉は長崎出島に赴任してきたドイツ人医師ケンペルが著した「日本誌」を、オランダ通訳の志筑忠雄が「鎖国論」として翻訳したものが始まりで、江戸末期まで日本には鎖国という概念はなかったのである。

6. フランシスコ・ザビエルによりキリスト教開教が行われて以来、キリスト教は為政者にとって重要な政策課題として、それぞれの対応が成された。しかし、為政者は一神教であるキリスト教に日本統治に対する危険性を感じ取り、キリスト教排除の弾圧を強化していき、ついには国外から宣教師の入国を禁止し、国内から日本人の出国を禁止する鎖国政策を採用した。鎖国下においても、日本は食料生産や手工業品の生産が国内で賄われ、元禄文化に代表されるように文化、芸術が向上し、自然サイクルの自給自足経済を展開していったのである。

250年の長期にわたり、戦乱もなく、平和で文化向上を成した国は、世界に類を見ないのである。